

# け や き



## 「子どもの姿」「教師の姿」で勝負

大仙市教育委員会 教育長 伊藤 雅己

教育長に就任し、9ヶ月が経とうとしています。吉川前教育長は、「大仙教育メソッド」、「大仙ふるさと博士」、「グローバルジュニア・マイスター」、さらには、「大仙まるごと楽園」構想に着手するなど、本市教育の充実と発展に尽くされました。子どもたちの健やかな成長とふるさと大仙の活性化にかける熱い思いを改めて感じております。

さて、就任2日目の7月2日から学校訪問が始まりました。市内全小・中学校の状況を自分の目で確かめ、強く抱いている学校への思いをお伝えします。

### ○「子どもの姿」「教師の姿」

学校訪問をして一番驚いたのは、一人一台タブレットを当たり前のように使いこなす子どもたちの姿でした。この1年での授業風景の大きな変化に驚かされました。一方、変わっていなかったのは、真剣に課題に向き合う子どもたちの姿、ひたむきに子どもたちに向き合う教師の姿でした。1つの授業の参観時間は数分程度ですし、コロナ禍のためマスク姿で表情ははっきり見えませんが、子どもたちや教師の姿に心を揺さぶられる場面がたくさんありました。子どもたちにも教職員にも力をつけるのが学校の大きな役割と考えています。その成果は、聞く姿、書く姿、話す姿など、意識しなくても普段の姿に表れるはずで、「子どもの姿」「教師の姿」で勝負する学校を目指したいと強く思っています。

### ○「楽しい授業」

そのためには、普段からよい授業ができているかどうか勝負です。私の考えるよい授業は、「楽しい授業」です。新しいことを学ぶ楽しさ、苦勞してわかることの楽しさ、他者と活動する楽しさ、授業の進め方や教師の指導技術による楽しさなど、様々な楽しさが考えられますが、難しいことは抜きにして、とにかく

「子どもたちにとって楽しいかどうか」が大事です。楽しさは、子どもたちの表情を豊かにするはずで、子どもたちはもちろんのこと、授業する教師も楽しいと感じる授業を大事にしてほしいと強く思っています。

### ○「元気な学校」

何をするにも心身の健康、すなわち元気であることが大前提です。特に、心の元気を大事にしていきたいと強く思っています。意欲、向上心、挑戦心、根気、勇気、気概など、とにかく心が元気でなければ何もできません。そのことは、子どもたちはもちろんのこと教職員にこそ必要であり、だからこそ、働き方改革を進めなければならないのです。一気に解決する妙案がないことは百も承知ですが、私に与えられた使命として取り組んでまいります。学校訪問の際に「自身や家族に小さなご褒美をあげてください」とお願いしましたが、各学校でもお互いが元気になるちょっとした工夫を心がけてほしいと強く思っています。

落ち着くかと思われた新型コロナウイルス感染症でしたが、第五波、さらには第六波と未だ出口が見えない状況にあります。しかしながら、時間の流れは止められません。未来を生きる子どもたちのために、一日一日を大事にするという地道な努力の積み重ねしかないと考えています。まだまだ新米の教育長ですが、子どもたちや教職員の皆様の具体的な姿をイメージしながら職責を果たすために努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。



<タブレット端末を活用した授業>

## いのちの教育あったかエリア事業

## 心に響く体験活動と道德教育の充実

大仙市立仙北中学校 教頭 村井 史人

## 1 はじめに

本校では、国指定史跡「払田柵跡」や国の名勝に指定された「旧池田氏庭園」など、ふるさとの文化を愛し、伝承していかうとする態度の育成を基盤として、学級のもつ様々な力（これを「学級力」という）により、生徒一人一人の力を伸ばすことを最重点として取り組んでいる。今年度は、高梨小学校・横堀小学校と共に本事業の指定を受け、「生命の尊重・思いやり」を「いのちの教育」として位置付け、児童生徒の心に響く体験活動を生かして道德教育の充実を図った。



＜旧池田氏庭園  
ガイドボランティア＞

## 2 取組の概要

## (1) いのちの教育の充実を図る校種間連携

- ・仙北地区園・小・中学校連携協議会の開催
- ・小中合同あいさつ運動の実施
- ・小中合同道德研修会の実施
- ・研究授業（道德科）の相互参観 等

## (2) いのちの教育体験・交流活動

- ・花の苗植え、福祉施設等への寄贈
- ・旧池田氏庭園ガイドボランティア
- ・こども園との交流 等

## (3) いのちの教育人材活用

- ・いのちの教育講演会の実施
- ・道德科の授業におけるゲストティーチャーの活用 等



＜小中合同あいさつ運動＞

## 3 成果と課題

- これまで実践してきた様々な活動で「いのち」について考えるとともに、生徒が「いのちの大切さ」や「地域から頼りにされている存在」等に気付く機会になった。
- 生徒アンケートの結果で比較的低かった「自分はまわりの人の役に立っている」や「今住んでいる地域の行事に進んで参加しようとしている」の質問に対する肯定的な回答が大きく向上した。本校生徒の課題である「自己肯定感」を高める効果が見られた。
- 「動植物を大切にしている」の質問に対しては、保護者や地域から肯定的な回答が大きく向上し、学校の取組が、家庭や地域に十分に発信された成果と捉えることができる。
- 地域住民との触れ合いの機会が減少し、学校外の方々から感謝や励ましの声をかけられる機会が少なかった。生徒の自己有用感をより高めるためには、地域の方々と直接触れ合い、交流する機会を工夫することが大事である。
- 全体的に高い数値の回答が得られたが、低い回答をしている一部の生徒への支援を充実させる必要がある。

## 地域学校協働活動事業

## ジュニア起業体験で地域と共に

大仙市立南外中学校 校長 木村 光紀

今年度、南外支所地域活性化推進室と連携し、本校2年生がジュニア起業体験に取り組んだ。これは、地域の商店主等の方にコーディネーター役を担っていただき、1チーム5人程で模擬株式会社を設立して活動する商売体験プログラムである。

2年生が3つの模擬株式会社を作り、「ロゴ入りマスク」「お菓子の詰め合わせ」「学校菜園の野菜」をそれぞれの商品として、商売体験を行った。

活動のメインとなる販売実践は地元の商店の敷地をお借りして行った。当日は当初の予想より多くのお客さんに来ていただき、全ての商品が予定時刻前に完売する盛況ぶりであった。完売の瞬間に湧き上がった拍手と満面の笑顔が忘れられない。

生徒が主体的に協働的に物事を決め、かたみにし、地域に発信していくこの活動は、地域の声や反応に触れることで、やりがいや喜びを感じ、地元愛を育むことにもつながり、生徒にとって地域と共に学ぶことができる意義のある活動となった。



＜販売実践当日の様子＞

## 校種間連携・地域連携

## 地域が連携して子どもたちを育てる

大仙市立協和小学校 校長 三浦 久佳

協和地区には協和小学校と協和中学校の1小・1中が存在している。この2校は校地も隣接しているため、歩いても簡単に交流できるよさがあり、これまでもたくさんの交流活動を行ってきた。

その取組としては、小・中連携協議会、合同で行う朝のあいさつ運動、互いの学校を訪問する児童生徒の相互交流活動、合同学校評議員会、協和地域学校保健委員会等がある。

活動のひとつである協和地域学校保健委員会の参加者は、協和小・中学校の学校医、PTA関係者、こども園園長、両校の校長・教頭、そして両校養護教諭である。今年度は、「自立に向かってたくましく生きる力～学校・家庭の連携～」をテーマに、教職員や保護者のアンケート結果を基にして実施した。園・小・中の年代の違いに応じた子どもとの接し方について、地域、保護者、教職員の立場から考えるよい機会となった。

小学校教員という立場からのみ考えるのではなく、様々な立場からの考えを参考にすることによって、子どもたちへの見方や接し方にも広がりが出てきたように思う。

今後もこれまでと同様に連携する機会を増やしなが、校種をつないだ子どもたちへの支援を続けていきたいと考える。



＜協和小学校保健委員会の様子＞



## 心のプロジェクト「夢の教室」(市教育委員会)

## ようこそ、夢先生!

大仙市教育委員会事務局 指導主事 石塚 史人

各分野の夢先生を教室に迎え、子どもたち自身の夢を後押しする思い出に残る時間となった。

【夢の教室(スポーツ)】大曲小学校6年生で開催

・夢先生:長谷川暢選手、  
大浦颯太選手

(秋田ノーザンハピネッツ)

体育館で、夢先生と共にチームワークゲームに挑戦。力を合わせて見事にクリアでき、大きな歓声上がる。教室では、プロ選手になるまでの挫折を乗り越えたエピソードに、今の自分と重ね合わせて真剣に聞く子どもたちの姿があった。



<夢先生のトークの時間>

【夢の教室(図工)】西仙北小学校、神岡小学校、

中仙小学校、太田東小学校の各5年生で開催

・夢先生:小山内愛美先生

画家の夢を叶えるまでの生い立ちや努力を語る夢先生。素晴らしい作品の数々にみんなびっくり。そして、オリンピックイヤーの金メダル作りに挑戦。自作デザインである世界で一つの金メダルを完成させ、みんなにっこり笑顔となった。



<夢先生と記念撮影>

## 大仙っ子新聞読もうDAY(市教育委員会)

## じっくり読み、考え、書く「新聞Week」

大仙市立太田中学校 教諭 高橋 苑子

新聞を1週間かけて読み、興味ある記事を切り抜き、意見文を書く「新聞Week」。意見文は、生徒が互いに読めるように、また、各教科に関連するコメント等も併せて、世の中への関心を広げられるように掲示した。

生徒からは「今、世間でどんなことが起きているか注目するようになった」「私だったらどうするか考えて新聞を読むようになった」「仲間の意見文を読んでいろんな考えを知った」という声や、「自分や友達の好きなものを知るきっかけになった」という声があった。



<意見文の掲示>

「新聞Week」は、自分の考えや自他理解の深化、また、今まではテレビ等で聞き流していた情報を理解できるまで何度でも読み返すことができる「新聞」そのものの面白さを感じる生徒の増加にもつながっている。

まさに「継続は力なり」の「新聞Week」である。



<新聞Weekの様子>

## 大仙市中学生サミット(市教育委員会)

大仙市の未来は私たちがつくる  
SDGsプロジェクト

大仙市教育委員会事務局 指導主事 村田 文子

## 1 はじめに

今年度のテーマ

「SDGsプロジェクト」

～私たちの未来を守ろう 地域の未来を守ろう～

自分たちや大仙市の未来がよりよいものとなるよう、生徒会活動をSDGsと関連付けて振り返り、サミットでの協議を通して、自校の生徒会活動の活性化につなげた。

## 2 活動の概要

【中学生サミット全体会 令和3年8月11日(水)】

◆「地域の未来を守ろう」

○生徒会活動とSDGsの関わりについて

各学校の取組をSDGsの17の目標と照らし合わせ、どのような関連があるか考え話し合った。似たような取組でも関連付けが違っていたり、他校の特色ある取組を知ったりすることで、自校の取組を更に価値ある活動にしていこうと思案していた。

◆「私たちの未来を守ろう」

○SNSの使い方やルールについて

西仙北中学校からICTの活用として「ICT戦略特命委員会」や「デジタル意見箱」など様々な実践が紹介された。また、昨年度から継続して取り組んでいるSNSルールの必要性や意義についても活発な意見交換が行われた。



<グループ協議>



<グループ協議の報告>

【リモート会議】

Teamsを活用し、10校の生徒会でリモート会議を開催した。全体会の前に互いに交流できたことで多少緊張感も薄れ、有意義な話し合いを行うことができた。今後は定期的な開催を予定している。



<Teamsでリモート会議>

【その他の取組】

・中学生サミットポスターの作成と配布

・REVO10(各校版REVO通信)発行

## 3 おわりに

学校での学びと社会をつなげ、学校間や地域との連携を中心に、今後も地域活性化に寄与できるよう中学生からの発信を継続していきたい。

## 大仙グローバルジュニア育成事業 (市教育委員会)

## 大仙 "FUN" イングリッシュ・デー

大仙市教育委員会事務局 指導主事 牛木 豊

## 1 はじめに

英語による様々な活動を通して、児童生徒が英語への興味・関心を高めるとともに、英語によるコミュニケーション能力や意欲の向上を図ることを目的とし、以下の日程で今回初めて、開催しました。

## ■実施日

令和3年7月20日(火) 中学校1・2年の部  
7月27日(火) 小学校3・4年の部  
7月28日(水) 小学校5・6年の部

## ■会場 大仙市大曲交流センター (1F 講堂)

■講師 市外国語指導助手 (ALT)  
国際交流員 (CIR)

■内容 自己紹介、異文化理解、グループ別活動、発表等

## 2 活動の概要、成果と課題

参加者全員が英語による活動をたっぷり楽しめるよう6名のALTが各部門を分担し、この日のために特別な内容を企画しました。当日の朝、子どもたちは少し緊張した様子でしたが、やさしく朗らかでユーモア溢れるALTとCIRの進行のもと、すぐにリラックスした雰囲気、活動が進んでいきました。



&lt;クイズ! みんなで当てっこ!&gt;

主な成果としては、ALTの得意分野や経験を生かし、各発達段階に応じた活動を準備、提供できたことです。子どもたちは多少分からない言葉があっても場面や状況から予想したり、お互いに確かめ合ったりしながら楽しんで活動する姿や、授業で学んだ内容を活かして活動する様子も見られました。

一方、課題としては、活動内容の改善が挙げられます。異文化理解に係る活動では、英語を使う必要感をもたせた活動の設定が必要です。今後、海外とのオンライン交流の検討も考えています。



&lt;ALTロボット: Go straight!&gt;

## 3 今後に向けて

コロナ禍で人数を制限して開催しましたが、学年が下になるほど応募者が多く、英語への関心が高いことが分かりました。今後、できる限り多くの子どもたちが参加できる工夫をしながら、英語によるコミュニケーションを更に楽しめる場を提供していきたいと考えています。

## 部活動指導員配置事業

## 部活動指導員の配置によって

大仙市立協和中学校 教頭 石川 真一

本校に大仙市では初となる部活動指導員が配置された。10数年前までは、各学年3学級ずつ生徒が在籍する中規模校であったが、年々生徒数が減少し、今年度は全校で97名となった。そのためこれまででも計画的な廃部等で部活動の指導体制を整えてきた。職員数と部活動数、業務改善を考えると更なる調整が必要と考えられる。そのような中で配置のあった部活動指導員は、選手・保護者、そして学校にとっても効果的であった。本校では、柔道部への配置であったが、専門的な指導力のある指導員のもと、選手の技量も上がり大会でもよい成績を取ることができた。また、保護者も、専門家による安全に配慮されたよい練習環境が整えられたと受け止めている。監督として、普段の練習指導や大会引率まで、全面的にお願いできることとなり、学校にとって業務改善につながる大きな前進をみたところである。

今後、部活動指導員の増員も期待されることから、その先駆けとして更なる活躍を目指すとともに、その効果に関係機関に紹介していきたいと考えている。



&lt;柔道部練習風景&gt;

## 大仙ふるさと博士育成事業 (市教育委員会)

## 大仙ふるさと農業体験DAY

大仙市教育委員会事務局 指導主事 石塚 史人

## ○「夏の農業体験DAY」

- ・令和3年7月27日 農業組合法人たねっこジャガイモ収穫体験、給食加工施設見学
- ・令和3年7月28日 農業振興情報センターブルーベリー収穫体験・講話
- ・令和3年8月3日 農業科学館夏野菜収穫体験、秋田の伝統野菜の講話

## ○「冬の農業体験DAY」

- ・令和4年1月11日 農業振興情報センターチンゲンサイ収穫体験・講話
- ・令和4年1月12日 農業組合法人たねっこネギ収穫体験、ライスセンター見学

計5回の農業体験DAYには多くの児童生徒・保護者が参加し、「収穫した野菜は普段よりおいしかった」「おいしく安全な野菜に感謝したい」等の感想が寄せられた。収穫の喜びに加え、地域農業への愛着を深めることのできる有意義な時間となった。



&lt;夏: ブルーベリー摘み&gt;



&lt;冬: ネギの収穫&gt;



## G I G Aスクール推進事業 (市教育委員会)

## 授業が変わる 子どもが変わる

大仙市教育委員会事務局 教育研究所長 山信田 浩

G I G Aスクール元年となった令和3年度。児童生徒一人一人にタブレット端末が準備され、夏休み以降は普通教室に大型掲示装置が配置されました。また、年度途中からは授業支援ソフトの試用版が活用可能になり、授業も子どもも大きく変わった一年となりました。

学校訪問から見た成果としては、自力解決や集団思考の場、より主体的な取組や必要感に迫られた関わり合いの場面が多く見られるようになりました。また、授業の振り返りを端末で入力する取組により、自分の考えを長い文章で表現できるようになってきています。道徳科や特別活動の授業では、投稿機能や集計機能を活用して、児童生徒の考えや思いを集約しグラフ化して導入場面で活用する取組が多く見られました。課題や場面を自分事として捉える手立てとして大変有効な活用です。体育の実技や国語のスピーチなどでは、撮影機能を使うことで自分を客観的に捉える活動が可能となりました。

わずか数ヶ月の取組で、大きな変化をもたらしたG I G Aスクール。次年度以降も計画性をもって、30校が足並みをそろえて推進していきたいと思えます。



＜小学校体育館の授業で＞

## I C T活用推進拠点校事業 (市教育委員会)

## デジタルシティズンシップ教育に向けて

大仙市立西仙北中学校 教諭 田中 真二郎

今年度から生徒会にI C T委員会を新設した。各クラス1名の少数精鋭だが、ルールづくりから情報モラル集会の企画・運営、トラブル対応など日々課題解決に向けて頑張っている。I C T機器を積極的に使用することを呼びかける一方で、その使い方に注視し健全な使い方について啓発するという難しいポジションにいる生徒たちである。我々教師から押しつけられるようなルールではなく、日々の生徒の使い方を見ている生徒目線でのルールづくりの議論は、チャット上でも対面でも非常に白熱した議論となっている。この過程こそが、今求められているデジタルシティズンシップではないだろうか。もっと子どもたちの力を、能力を信じてみたい、そう感じた一年であった。



＜頼もしいI C T委員会メンバー＞

## I C T活用推進拠点校事業 (市教育委員会)

## 使いながら学ぶ～太田中学校区の歩み～

大仙市立太田南小学校 校長 伊藤 由美子

## 1 太田中学校区の具体的な取組から

- ・5月の地区I C T担当者会議で、便利な「文房具」として積極的に使っていくことを共通理解。
- ・「学生の時にTeamsの会議やグループワークに数多く取り組んだが、後から自分でノートに書くことで考えを確かにした記憶がある」というG I G Aスクールアシスタントの助言から、1単位時間におけるノートと端末活用の場面を各校で工夫。
- ・各種アプリを授業実践や学校行事で活用。テキストマイニングの活用も模索中。
- ・11月の担当者会議では、報告会の分担についてTeamsで意見交換。各校の進捗状況に刺激を受けたり、効果を尋ねたりすることができた。形式ではない本物の小中連携・小中連携ができたことを実感。

## 2 今後の展開

各校とも端末の活用については「使いながら学ぶ」というスタンスで、放課後の情報交換や互いの授業を見せ合うなどのトライ＆エラーを活発に行うことを大切にしてきた。学年段階の格差や学校間の格差解消を目指し、「I C T教育導入の前と後では学習効果と学習レベルが格段に向上した」となるよう、今後も互いの研鑽を積んでいければと願う。



＜4年生社会科の授業から＞

## I C T活用推進拠点校事業 (市教育委員会)

## 日々の教育活動での活用を目指して

大仙市立大川西根小学校 校長 佐藤 敦

今年度指定を受けた本事業において、本校では以下のような取組を進めてきた。

## ①まず、使いましょう

「習うより慣れろ」の考え方で、一日に1回はタブレットを開くことを目指し、「毎日」ということから、「健康観察」に活用することとした。Formsで各自の朝の体温や体調を入力させることで、担任と養護教諭が同時に情報共有できるようにもなった。

## ②授業の振り返りをリアルタイムで共有

主に6年生で、授業の振り返りをTeams上で開いたシートに全員が同時入力するという方法をとっている。自分の入力と同時に、友達の振り返りを見ることができると、リアルタイムで気付きや考えを共有することができるほか、担任も机間巡視やノート回収等をせずに状況把握できるという利点がある。

以上のような取組により、子どもたちはノートや鉛筆と同じ感覚でタブレットを使えるようになってきている。今後もI C T支援員との連携や他校との情報交換等により、更に学びが深まる活用方法を探っていきたい。



＜Teamsで振り返りを共有＞

## 手洗い教室

## 「手洗って、すごいんだ」

大仙市立南外小学校 校長 板垣 淳

令和3年12月3日。3年児童を対象に「手洗い教室」を実施し、大仙保健所環境指導課職員及び食品衛生協会のみなさんに指導していただいた。

3年児童11人中10人が、手洗い教室実施2週間後のアンケート調査で「手洗いの仕方」が指を1本1本洗う、爪の先まで洗うように変わったと答えた。

「手洗いの仕方」の行動の変容をもたらしたのは手洗い教室の先生方のお話と『ルミテスター』なる「ばい菌計測器」を使ったばい菌数の数値化によるところが大きい。

「手洗い名人」になったS君は、手洗い前のばい菌数が13,555個、手洗後は180個まで減少した。S君からは「手をよく洗うと、菌がとっても落ちるのが、すごいと思いました」という感想が聞かれた。他の児童一人一人も、ルミテスターの測定結果に一喜一憂した。子どもたちの目が輝き、手洗いの効果を実感した瞬間だった。

今後もルミテスターを活用した「手洗い教室」を継続していただけることを願いたい。



＜手洗い実験の様子＞

## 課題別研修A「特別支援教育・生徒指導」(市教育委員会)

## 児童生徒理解研修

大仙市教育委員会事務局 指導主事 木元 真一

今年度は、これまで開催してきた特別支援学級担任等研修会、生徒指導主事・学校生活支援員等対象の職務別研修会を一本化して児童生徒理解研修を3回行った。特別な支援を必要とする児童生徒にも、生徒指導上の困り感を抱えている児童生徒にも、的確な理解が支援、指導の第一歩であると考えて実施した。

1回目(6月)は、特別支援教育の視点からの児童生徒理解について、秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所の朝倉紀子指導主事にご講話いただいた。2回目(8月)は、愛着形成の視点からの児童生徒理解について担当指導主事が解説した。3回目(1月)は、感覚統合の視点からの児童生徒理解について、秋田県立大曲支援学校の高田あづさ教諭からご講話いただいた。

各小・中学校の特別支援学級担任、生徒指導主事、養護教諭、学校生活支援員、通常学級担任等、参加対象を変えながら研修動画をオンデマンド配信し、延べ350名程の教職員が研修に参加した。

参加者から、困り感を抱えている様々な児童生徒への支援における、発達等に注目した的確な理解の重要性に気付くことができたなどの感想が寄せられた。

## 課題別研修B「ICT活用推進」(市教育委員会)

## まずは使ってみよう！

大仙市教育委員会事務局 指導主事 石塚 史人

令和3年春、本格導入されたGIGAスクールタブレット端末。「何ができるか」「どう活用していくか」への解決に向け、本研修が設定された。

1回目(5月)はオンライン開催。研修の目的、提出課題(ICT活用実践報告、情報活用能力育成年間指導計画)を示し、学校での取組を依頼した。

2回目(8月)は、端末を持ち寄り対面で開催。OneNote演習、PowerPoint協働学習、提出課題の情報共有等を行った。他校の実践は、共有フォルダにより閲覧できる仕組みとした。

3回目(1月)は、ICT活用推進拠点校報告会も兼ね、全教職員視聴可能として開催。報告発表や提出課題等、優れた実践の数々は大変参考となった。

「まずは使ってみる」ことから始まったこの一年。各校情報担当の尽力により、学校全体で取り組む意識が着実に高まるなど、市全体で大きな進歩が見られた。今年度に育ったたくさんの芽が今後大きな花を咲かせることを期待できる研修となった。



＜2回目の研修の様子＞

## 課題別研修C「新ふるさと教育」(市教育委員会)

## ふるさとへの思いをさらに…

大仙市教育委員会事務局 指導主事 牛木 豊

「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を更に進めることをねらいとし、今年度初めて本研修会が行われました。「児童生徒主体の発想を生かし、教科の学びや行事をつなぐ」「ポケットブックを活用し、学区を越えて市全体に目を向ける」という2つの視点で、各校で取り組んでいただきました。

1回目のみオンデマンドによる実施となりましたが、その後は対面で実施、各校の取組や工夫について共有化が図られました。特に3回目は、中学校区毎に情報交換し、新たな気付きも共有され、小中連携の面でも貴重な情報交換の場になったと感じました。総合的な学習の時間に効果的に位置付けた取組も紹介されました。

また、「手づくりふるさとPR募集」では5小2中学校からポスター部門、動画部門併せて26作品の応募をいただきました。どの作品もふるさとに対する子どもたちの愛着と誇りに溢れたものばかりでした。今回の取組を基にし、今後の活動につなげたいと考えています。



＜第3回研修会 協議の様子＞



## 人権ユニバーサル事業 (市教育委員会)

## 車いすバスケットボール体験教室

大仙市教育委員会事務局 指導主事 木元 真一

車いすバスケットボールの体験を通して、障がいがある方への理解を深め、相手を思いやったり、共生社会へ関心を高めて主体的に行動したりする力を育むことを目的に、体験教室を行いました。本事業は秋田県地域人権啓発ネットワーク協議会のご協力の下、人権擁護委員の皆様にも参加、協力をいただいています。

車いすバスケットボール体験教室には、11月10日に大曲西中学校の3年生21人が参加しました。秋田県バスケットボールクラブの五十嵐憲男代表の他、3名の選手から競技用車いすの基本的な操作方法やルールを学んだ後、ミニゲームを体験しました。

車いすを操作することの難しさや自在にプレーをする選手の皆さんのすばらしさを感じるとともに、みんな一緒にスポーツを楽しむことの心地よさを味わいました。

共生社会の実現に向けてバリアフリーへの考えを深めていきたいと感想を述べた生徒もいました。



&lt;車いす体験をする生徒たち&gt;

## 情報モラルいじめ対策事業 (市教育委員会)

## 引き続き情報モラルの大切さを

大仙市立高梨小学校 教諭 阿部 晃紀

本校では、5・6年生の情報モラル教室を6月に行いました。講師は、KDDI東北の東島さんと大仙警察署の福嶋さん。ネットいじめ、ネット依存等の怖さについて、子どもたちは日頃の生活を考え直すことができました。その後の児童アンケートから、下学年にも指導することが必要だと判断し、7月には南教育事務所の湯野澤指導主事を講師として4年生にも情報モラル教室を行いました。また、GIGAスクールアシスタントの若林さんの協力を得て、タブレットPCの使い方を中心に情報モラルの授業を1～6年生に行いました。しかし、ゲーム実態調査では、長時間及び深夜までネットゲームをしている児童もまだいるようです。情報モラルについては、保護者の理解も得ながら、今後も継続して学んでいく必要があると考えています。



&lt;情報モラル教室&gt;

## だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 (市教育委員会)

## 生徒が主体的に行う避難所開設訓練

大仙市立協和中学校 教諭 神戸 博

## 1 はじめに

9月30日(木)に令和3年度「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」避難所開設訓練が実施された。生徒が主体的に行動できる力と防災意識を高めるため、平成25年度(2013年度)から実施され、本校で9校目の実施となる。

コロナウイルス感染予防対策から、本校生徒と市防災担当関係の皆様との少数精鋭で行われた。

## 2 訓練の概要

「協和地域を震源とする直下型の地震が発生し、震度6弱を記録、家屋の倒壊やライフラインの停止によって、本校に避難所を開設する」という設定のもと、午前9時40分に地震発生放送からシェイクアウト訓練を実施。グラウンド避難完了後に校内安全確認を行い、避難所開設要請を受けた。

今回は本校生徒会の各委員会活動を活用し、全校縦割り班として総務班、救護班、情報・広報班、食料・物資班、衛生管理班、ボランティア班の6班編成とした。体育館を中心に、各委員長がリーダーシップを発揮し、段ボール製パーティション、簡易テント、救護エリア、発熱者対応室などの受入体制を整えた。各班での振り返り活動後、自主防災組織への引継集会を行い、訓練終了となった。

## 3 成果

計画規模縮小を本校生徒が主体的に活動する好機と捉え、様々な成果を得ることができた。

特に、設置後の生徒自身による各業務担当と避難者役のシミュレートでは、実際の流れを体験することで、それぞれの目線からの課題や改善点について気付くことができた。

また、ピクトグラムに手書きイラストを添えた温かみのある掲示、ICT活用による情報連携など、防災意識の向上と地域貢献の大切さを生徒が自分事として感じる事ができた。

## ◆生徒自由記述より(抜粋) \*○成果●課題

○実際に避難所を開設し、中学生でも地域のためにできることがあるんだと感じた。

●タブレットを思っていた以上に活用できなかった。知識や技能を高めていきたいと思った。



&lt;救護班ピクトグラム&gt;



&lt;タブレットの活用&gt;

## 働き方改革

## 午前5時間制の成果と課題

大仙市立内小友小学校 校長 島山 仁

## 1 はじめに

本校の日課表は、右のように午前中に5時間授業を行うようになっている。これを実施したのは平成30年度の後期後半からで、当時の平田尚之校長先生のご決断と伺っている。日課表を変えた初年度は、保護者等から問合せが1、2件あったとのことだが、現在では午前5時間制に対するご指摘は全く寄せられていない。東京都目黒区等、この方式を長年採用している自治体もあり、一定のメリットはあると感じている。

令和3年度		日課表		内小友小学校	
開始	終了	活動内容			
8:00	8:10	朝の会			
8:10	8:55	1校時			
9:00	9:45	2校時			
9:45	10:05	すこやか 火曜日・木曜日 かけ足運動・なわとび運動			
10:05	10:50	3校時			
10:55	11:40	4校時			
11:45	12:30	5校時			
12:30	13:15	給食・歯磨き			
13:15	13:30	そうじ			
13:30	13:55	昼休み			
13:55	14:05	昼読書			
14:05	14:50	6校時			
14:55	15:05	帰りの会			
5校時限の場合(含:クラブ・委員会) クラブ等の日は3:20まで					
14:10	14:20	帰りの会			
14:20	15:05	6校時			
*下校時刻 5校時の場合 2:25 6校時の場合 3:10					
*タクシー 5校時の場合 2:30 6校時の場合 3:15					

## 2 実施するための条件

登校完了から1校時開始までの時間が短いため、遅刻や欠席児童の把握を速やかに行う必要がある。したがって、児童数が多かったり所在の確認に時間を要したりする学校の実施は厳しいと感じる。また、職朝の時間を取っていないため、全学年単級であれば特に支障はないが、学年が複数学級の場合は、前日に打合せを行う等工夫が必要と感じる。

## 3 配慮事項

新1年生は、保育園では出されていとおやつが出なくなり、しかも登校班で徒歩通学となるため、6月頃までは「お腹が空いた」と訴える子どももいる。各家庭に、しっかりと朝食を食べさせるよう改めてお願いする必要がある。また、食が特に細く、保護者から補食の依頼がある場合は配慮している。

学級担任については、午前中に5時間連続の授業となるため、教頭と担外教員が一部教科の授業を担当し、なるべく空き時間ができるようにしている。また、5時間目や午後の授業は、実技教科や総合、委員会等活動的な学習を入れ、児童の集中力に配慮している。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

放課時刻が5時間の日は14時25分、6時間の日は15時10分と早いので、教員にとっては教材研究の時間を確保しやすくなっている。児童にとっては、家庭学習や読書、スポ少の準備、自主トレ等、自分の裁量で様々なことに取り組む時間が確保されている。また、早起きして朝食をしっかりと食べてくる児童が多く、生活リズム定着の面でも有効である。

児童の集中力が高い午前中に殆どの教科の授業を終えられるため、学力の定着を図りやすい。また、研修や会議等を実施する場合も授業をカットする必要がないため、授業時数確保の面でも有効である。

## (2) 課題

2(2)に記載したことに加え、職員の出勤時間も早いことから、降雪時の朝の負担が大きいことが課題である。

## 5 おわりに

子どもたちに力を付けるためには、教材研究と授業時数確保、研修が欠かせない。午前5時間制にはデメリットもあるが、本校では有効に機能していると感じる。

## 第27回大仙市教職員研究集会(市教育委員会)

## 新たな船出

大仙市教育委員会事務局 教育研究所長 山信田 浩

教育委員会の組織が改編となり、7月には伊藤雅己教育長が就任され、今年度は新たな船出となる一年でした。また、新学習指導要領の全面実施、未だ終息を見せない新型コロナウイルス感染症への対応、そしてGIGAスクールの推進と、取り組む課題も多岐にわたりました。

このような状況の中、今年度の大仙市教職員研究集会はオンデマンド形式による配信と紙面報告を併用した形で実施しました。各学校ではそれぞれの状況に応じた時間を設定し、全職員が大型ディスプレイで視聴していただきました。

長年にわたってご指導いただいた吉川前教育長からのメッセージや伊藤教育長の思い・お人柄、また新しくなった教育委員会の組織、今年度の特色ある取組等をコンパクトにまとめた形でお伝えすることができました。

現状に合わせた試みとしての実施となりましたが、新たな研究集会の形の一つとして、今後の研究集会の在り方を模索していきたいと考えております。

## 令和3年度 教育研究所のあゆみ

## 1 大仙市教職員研究集会

- 第27回大仙市教職員研究集会 (R3. 8. 16~8. 27)
- ※オンデマンド配信及び紙面報告併用

## 2 課題別研修

- ◆課題A「児童生徒理解研修」  
①R3. 6. 3 ②R3. 7. 21 ③R4. 1. 11
- ◆課題B「ICT活用推進研修」  
①R3. 5. 31 ②R3. 8. 4 ③R4. 1. 6
- ◆課題C「新ふるさと教育研修」  
①R3. 5. 14 ②R3. 7. 6 ③R3. 12. 16

## 3 学校訪問

- 前期訪問: R3. 7. 2~10. 5
- 後期訪問: R3. 10. 22~11. 19
- ・全ての学校でタブレット端末を活用した授業を提示。
- ・新型コロナウイルス感染症対応として、一部の学校で形態を変更して実施(訪問者縮小、全体会なし)。

## 4 GIGAスクール推進

- 大仙市学校教育情報化推進委員会
- ・市内30校の代表教員で組織
- ・推進委員会及びシステム部会等をオンラインで実施
- 大仙市学校教育情報化推進計画(R3~5)の策定

## 発行 大仙市教育研究所

〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16  
TEL: 0187-63-9400 FAX: 0187-63-9401  
E-mail: om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp